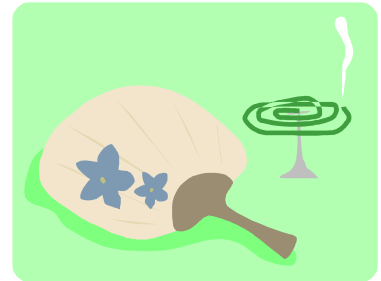


みやけの風

第 233 号

平成17年(2005年)7月30日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

暑中お見舞い申し上げます
 暑さ厳し折柄、どうぞご自愛ください



三宅島災害・東京ボランティア支援センター 一同

みんなの声

48回目の結婚記念日

7月25日48回目の結婚記念日と主人の誕生日がやって来た。今年は一人で。

昨年、東京での避難生活最後の年に金婚式の前祝として、八王子の竹亭で二人でカンパイして写真を撮ってもらったのが、最後だった。今年には主人の好きな三宅島でつった魚でカンパイする予定だったのに・・・。

でも、写真と友人と私の生きているかぎり、結婚記念日は続けようと思っています。だって、私の中には主人は生きているのだもん・・・。

私が三宅島に住めるようになったのも、東京の時も、三宅に来て、大勢の方々の支えがあったればこそと、つくづく思い、感謝しております。

病身で八十近い年で、世の中の人たちにお返ししたい気持ちはあっても、今生きるだけで精一杯でお恥ずかしいかぎりです。せめて骨だけでもと、献体の会員になりました。

三宅島も新しく立ち直るために、毎日毎日一生懸命働いております。ボランティアの方々に感謝しつつ、相変わらずガスは毎日何回も出ております。でも、自然のことだし、つきあうより仕方ありません。

島の人には多かれ少なかれ被害をこうむっている仲間です。仲良く助け合って、前向きに生きたいと思います。

(坪田 寺田 静子)

『よみがえれ三宅島』

～ジャック・T・モイヤー氏への報告～

どうしてもジャックさんに三宅の海を見ていただきたくて、分骨をお願いした密葬の日。

その日から私は、ジャックさんをお預かりしてきた。避難指示解除になったら、一番先に帰りたかったらうジャックさん。私が帰るたびにお連れして、大路、長太郎、お医者さんの家は見ていただいた。

しかし、海の中を見ていただくには力不足。

そんな折、三宅島観光協会主催のイベントが計画された。ジャックさんに三宅島を見ていただくこと。よみがえった三宅の海を見ていただくことを願う方々が、実行委員会を立ち上げてくださった。

7月21日、ついにその時がやって来た。前日まで荒れていたという錆が浜はベタナギ。実行委員会の計画通り、イベントは進む。各方面からの来賓もお迎えして・・・。

しかも島民の参加もすごかった。なんと協会準備していた600枚のT-シャツは早々と手元を離れて、T-シャツを着ていない人も目立つ。700名以上の方は確実に阿古の桟橋に集まった。

セレモニーの後、14隻の船で三本岳へ向かう。なんとこの時、2匹の海亀が水面に現れた。先船にジャックさんが乗船。射爆中止を実現させてくださったお陰で、今も豊かな漁場があることを組合長が報告。

そのあと、富ヶ浜のダイビングを予定していたが、気象状況からこのまま錆ヶ浜沖でダイビング。ジャックさんによみがえった海を見ていただくことが目的。なんと驚き。クマノミのところに行った時、分骨のピンのふたが開いたというのだ。ジャックさんの初の研究論文『クマノミ』。きっとあの時のように、クマノミと一緒に泳ぎたかったに違いない。ダイビングしていた人は慌てたようだ。散骨ではないので、必死にふたをして、持ち帰ってくださった。海水漬けになったジャックさんが、私の手元に戻ってきた。

いつか富ヶ浜と長太郎池を見ていただきたい。その時、ジャックさんはどんなことをするのだろう。海に戻りたいと望み、ピンから飛び出すのだろうか？それはそれでいい。次回はジャックさんの意思にお任せしたい。

今、戻ることが出来た三宅島の空気を満喫しているのだろう。しばらく、三宅でゆっくりしていただきたい。

三宅島観光協会のお陰で、ジャックさんの念願を叶えていただくことが出来たことに感謝。何よりあの日の島民の笑顔が輝いていたことが嬉しい。餅まきの時、バーベキューの時、素敵な笑顔があった。

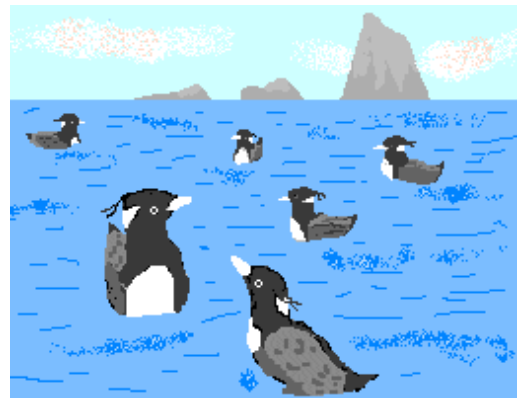
避難中開催された9回の『ふれあい集会』に次ぐ、第10回目の集会在三宅島で出来たよ

うに感じた。

このひと時を全国に発信したかった。三宅島も元気で頑張っていることを、お世話になった皆さまにお伝えしたかった。

末筆になりましたが、ずうとずうと『みやけの風』で心と心をつないでくださっている上原さんをはじめ支援センターの皆さまにお礼申し上げます。どれほど島民が支え、励まされてきたことか・・・。

避難して5年。ジャックさんをずうとお守りし続けてきた母（ジャックさんは何宗かしら？母は仏教）も、91歳。ここまで来られたのも皆さまのお陰です。ありがとうございました。
(町田市 永井 タケ子)



「カムリウミスズメ」
モイヤー先生が護ってくださった三本岳に住む貴重な鳥です（画：荏原昭子）

みやけの風現地センターから

夏の台風の接近で東京からの船の欠航が続き、帰島の遅れた方にも無事に島での暮らしの再建が始まりました。

センターは台風一過の真夏の太陽の下、阿古、神着、坪田と帰島者の方々への訪問と周辺環境整備に大汗を流しております。

さて、支援センターは8月24日を第1期支援事業の終了日と想定し、8月23日～24日に三宅島で役員会を開催し、第二期事業の運営に関する協議する予定です。

第二期事業としては、三宅村、三宅社協の方々とも引き続き協力をいただき、高齢者の方々が気楽に集まり、ゆっくりと時間を過ごせる『家』＝『三宅・風の家』の設置を検討しております。

幸い、日本建築学会理事会が阿古に所有する立派な建物を、支援センターの事業に提供して下さることが決まり、現在、担当者が来島し、センターと現地で具体的準備に入っております。

島の皆さん。引き続きよろしくお願ひします。

7月30日 土曜日

三宅島支援センター 三宅島事務所